

2024
11月29日号203
VOL.

発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会 〒963-0201 郡山市大槻町字原ノ町3-1 TEL/FAX 024(954)7595

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

11月に思う



副会長 布川 真理子

令和6年10月20日、福島県診療放射線技師会学術大会2024が星総合病院ポラリス保健看護学院メグレスホールにて開催されました。演題数も多く、聞きごたえのある大会だったのではないのでしょうか。大会運営に携わる委員の皆様、演題を寄せてくださいました皆様、会場へ足を運んでくださいました皆様、ありがとうございました。

今年も早いもので、年の瀬が近づいて参りました。歳を取ると一年が早く感じると思いますが、この現象は「ジャンネーの法則」と呼ばれているそうです。私の場合、最近では殊更早いように感じていて、地球温暖化の影響なのか春と秋がとても短く、長い夏が終わったらもう年末という感覚で、自分の季節感と実際の月が一致しないのが一因なのではないかと思っていたのですが、悲しいことにこの法則が成り立つ理由は、脳の活動量が年齢とともに減少するためだそうで…8割そうだとすると、2割は地球温暖化のせいにして自分がいます。

地球温暖化は、確実に異常気象をもたらしています。今年7月には秋田県、山形県、9月にはまた能登半島で大変な豪雨災害がありました。平成28年に観測史上初めて東北地方の太平洋側に台風が上陸し、岩手県に大きな被害を与えましたが、今年も同じような進路をとる台風が現れました。この進路はもう稀ではないのかもしれませんが、福島県沖から上陸する可能性もゼロではありませんので、日頃の備えはもちろん、医療をどう継続させるかを考えておくことも重要になってくると思います。

また、地球温暖化は、災害のみならず健康にも影響をもたらすといわれており、熱中症や呼吸器疾患の増加、デング熱やマラリアなど感染症のリスク増加、水質悪化がもたらす健康被害が考えられています。私が特に心配なのが、永久凍土の融解によって未知のウイルスや病原菌が復活して感染症を引き起こすことです。致死率の高い感染症がパンデミックを起こしたとしたら…医療業界は色々と厳しい未来となりかねません。

個人でできることは小さいかもしれませんが、「足るを知る」精神を大事に、消費を減らしたり、近場は歩いたり、地産地消を心がけたり、出来るところから行動したいと思えます。温暖化はマイナスな面が多いですが、福島県沖で伊勢海老とトラフグの水揚げが多くなり、新たな名物として注目されています。魚屋へ歩いて行って、伊勢海老とトラフグを買って、残さず完食はすぐにでも出来そうな気がします。

皆様におかれましては、穏やかな年末年始を迎えられますよう心よりお祈り申し上げます。

福島県立医科大学 保健科学部 診療放射線科学科 だより

福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科 田代 雅実

診療放射線技師を目指す学生にとって、解剖学の理解は不可欠です。人体の構造やその立体的な配置を深く理解することは、日々の診療における画像診断や治療計画に直結します。そのため、大学で行われる解剖学実習は、教科書だけでは得られない立体的な人体の構造を自らの手で学ぶ貴重な機会となります。本稿では、福島県立医科大学保健科学部における解剖学実習の詳細をご紹介します。

本学部では、理学療法学科、作業療法学科、そして診療放射線科学科の1年生が、必修科目として解剖学実習に参加します。今年度は104名の学生が14体のご献体を用いて、11日間にわたる解剖学実習を行いました。ご献体を用いた実習は学生にとって感謝と畏敬の念を抱きながら臨むものであり、特に初日となる執刀式ではその意識が一層高まります。2024年10月15日、保健科学部において執刀式が執り行われました。執刀式は、学生が解剖を開始する前に、献体への感謝とその尊厳を尊重する心構えを新たにする儀式です。福島県立医科大学神経解剖・発生学講座名誉教授の八木沼先生は、「全てをさらけ出しているご献体のためにも、学生は積極的に学ばなければならない」、「ご献体はまるで、『この神経が何であるか分かるか』と問いかけているようだ」とし、ご献体の尊厳を学生に強く意識させる言葉を送りました。また、保健科学部の矢吹学部長は、実際にご自身のご尊父様が献体を提供された経験をもとに、遺族の思いや解剖学実習の重要性について語り、学生たちに大きな感銘を与えました。

執刀式を終え、いよいよ解剖実習が始まります。初日は、皮切りや皮剥ぎの基本的な手技から始まりますが、ご献体にメスを入れる際、すべての学生が初めての経験であり、緊張と不安からなかなかメスを動かせませんでした。教室には長い時間の沈黙が広がり、全員がその重さを感じていたと思います。しかし、最初の一步を踏み出すと、学生たちは徐々にその手技に慣れ、真剣な表情で取り組む姿が見られました。初日の実習では、ほとんどのグループが前面の皮剥ぎに続き背面の皮剥ぎまで終えることができました。解剖学実習では、浅層・深層の血管や神経、筋肉を一つひとつ丁寧に描出する作業からはじまり、各臓器やそれを栄養する血管の観察を行います。このような段階的な手技を経て、次第に人体の複雑な構造を深く理解することが求められていきます。人体は教科書通りの「標準的な構造」に必ずしも従わず、個々の違いや変異が存在します。これを解剖実習で体感することは、後にX線やCT画像の撮影を行う際、重要な役割を果たします。解剖を通じて、学生たちは教科書に記載されていない、実際の人体の複雑さや個別性を理解することで、理論に加え実践的な知識を身につけていきます。

保健科学部の解剖学実習は、診療放射線技師を養成する他の多くの教育機関と比べても、非常に本格的な内容を誇ります。診療放射線技師の養成校において、学生自身が一からご

献体を解剖する機会を提供している施設は限られており、その点で本学部の実習は他に類を見ない貴重な経験と言えるでしょう。皆様が学生時代に行った解剖学実習はどのようなものだったでしょうか？おそらく、標本を観察することや、すでに解剖が終わったご献体に触れるような実習が一般的であったかもしれません。しかし、本学ではこのような実習を超え、学生が実際に解剖を行うことで、より深い理解を促すことを目指しています。学生たちは、この実習を通じて、基礎的な解剖知識を学ぶだけでなく、患者ごとの解剖学的な差異を理解する力を養います。画像診断において、X線やCTの断面像から見られる解剖学的な違いは、診療放射線技師にとって重要な情報です。しかし、これらの画像は2次元的であり、その質感や色の違いを感じ取ることはできません。解剖学実習では、五感を駆使して実際の人体に触れることで、より深い理解を得ることができます。この経験は、診療放射線技師としての臨床能力を高め、患者に寄り添った最適な画像診断を提供するための重要な土台となると考えます。

解剖学実習の根底にあるのは、「献体」という崇高な行為です。献体とは、自らの身体を死後に医学や歯学の教育に役立てるため、無償で提供することを指します。これにより、医学教育の発展と医療の向上が支えられています。献体を希望する方は生前から登録を行い、亡くなった後に遺族から同意を得てその意思が実現されることで初めて献体を実現します。解剖室の入り口には、「HIC GAUDENT MORTUI VIVENTES DOCERE（ここでは死者が生者に教えることを喜んでいる）」という言葉が掲げられています。この言葉は、実習に参加する学生たちにとって大きな励みとなり、解剖学実習が単なる技術習得の場ではなく、命と向き合い、その尊厳を尊重する場であることを強く意識させます。

解剖実習の全過程は非常に長丁場であり、終了時には厳しい口頭試問も待っていますが、学生たちにはこの貴重な経験を通じて最後まで学び続けてほしいと願っています。保健科学部では、今後も解剖学実習を通じて質の高い教育を提供し、実践力と共に人間としての成長を促す診療放射線技師の育成に努めてまいります。



～ 県会長 「オンレコ」 ～

1 「第2回執行部会及び理事会」

9月5日

まず各委員会等の活動報告：記念誌発行の状況の説明がありました。協議事項として各種後援等の承認、新入会委員の承認、啓発ポスターの更新、各種後援依頼について等を話し合いました。報告事項としては日放技理事会関連、東北地域放射線関連、TCRT2024等を報告しました。

2 「東北会長会議・TCRT2024役員会」

10月3日

会長会議では、会則や企画・学術奨励賞について協議しました。役員会では、ランチョンセミナーの弁当代がかかるとの事で学生から参加費1,000円を徴収する事を決めました。年々、色々な値上げで経費が増えていますので、次年度から徴収を開始します。また次年度の青森県開催では青森駅から会場まで2kmあるのでスタンプラリーを検討中だそうです。

3 「TCRT2024」

10月4－5日

前日の雨も上がり、学生の参加や発表も多く活気ある2日間でした。JART企画については昨年山形大会後に企画委員会で構成を練り進めてまいりました。一般演題を重視しつつ、良い企画を考えていきました。JART地域理事（東北放射線技師会代表も）山形県鈴木会長に引き継いで貰いました。来年度の青森県開催にもぜひご参加ください。

4 「県学術大会」

10月20日

演題数も増えて活気ある大会になりました。実行委員やお手伝いの方々に感謝申し上げます。また、星総合病院さんにはいつも会場を貸していただき感謝します。こちらも学生さんの参加があり活気がありました。現在、一般公開講演の座長集約を作成中です。

地区だより

県南地区

「ピンクリボン in 郡山 2024」開催

令和6年10月15日「ピンクリボン in 郡山 2024」が（公財）星総合病院 メグレスホールにて開催されました。

参加会員は、星総合病院から3名、たむら市民病院、太田西ノ内病院、土屋病院からそれぞれ1名の計6名。

①活動内容

乳がん検診及びマンモグラフィ・乳腺エコーに関するパネル展示

セルフチェックの薦め：セルフチェックの行い方を説明し、乳がん触診モデルを用いて乳腺内腫瘍を触知した際の感触を実体験頂いた。この経験を通してセルフチェックした際の『気づき』に繋がる事を期待する。

超音波診断装置を用いて“フルーツゼリー”をスキャンし、超音波画像を直感的に感じてもらえた。また、実際にプローベを握ってスキャンしてもらう事で、検者側の検査手技についても理解を深めてもらえた。“フルーツゼリー”の



技師会ブースにて

左から鈴木・井奥・深谷・國分・斉藤（敬称略）

超音波画像と展示したパネルの画像所見を対比させることで、乳腺エコーの特性をお伝え出来た。来場者の声として、とても好評であった。

②乳がん検査機器見学ツアー

星総合病院マンモグラフィ撮影室、ABVS（Automated Breast Volume Scanner）、乳腺外科診察室・乳腺エコー室を巡回し、それぞれの検査の役割、長所、短所の解説を行った。但し、参加者は例年に比べて少なかった。

③相談コーナー

認定看護師やソーシャルワーカーと共に相談コーナーに加わったが生憎相談者はいなかった。但し、この企画はこれまでも継続してきたので、次回以降も相談コーナーへの関りを保っていきたい。

④技師会グッズ

以前に技師会にて作成した技師会名入りのクリアファイルとポケットティッシュ、そしてみちのく小町活動時代に使用していた頒布品（セルフチェック用石鹸）を当日当技師会ブースへの来場者に配布した。他の出展ブースでも配布品があったので、次回以降も何かしらの配布品を企画したい。

⑤総括

コロナ禍前の400名を超える参加者をお迎えできる日がいつになるのか、と思われるほどその当時の盛況ぶりには程遠いが、地道な取り組みをコツコツと継続する事しかない、と思いながら次回以降の企画を温めていきたい。

（たむら市民病院 白石嘉博）

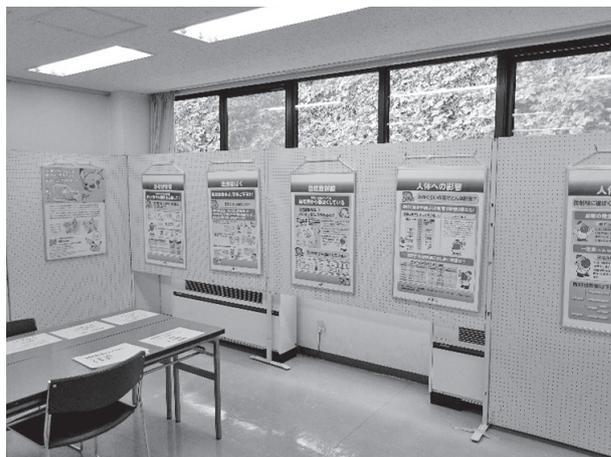
会津地区

「第37回会津若松市健康祭り」開催

11月10日（日）に第37回健康祭りが会津文化センターで開催されました。今回は、福島県立医科大学健康増進センター主催のいきいき健康づくりフォーラムin会津と同時開催でした。来場者数は例年の倍以上となり、診療放射線技師会のパネル展示には85名の方がいらっしゃいました。

市民の皆様の中には放射線の被ばくについて不安になられる方もいましたが、今後も安心・安全に検査を受けていただくよう務めていきたいと思えます。

（皆川）



編集後記

めっきり寒くなってきました。ついこの前まで半袖だったと思うと、過ぎしやすい“秋”の季節がとても短く感じます。皆様、今年の秋を満喫しましたか？いろいろな“〇〇の秋”がありますが、何といても“食欲の秋”です。秋だけに限らず、冬になってもいっぱい食べ、しっかり栄養をとって、風邪をひかないように年末年始や一冬を元気に乗り越えましょう。

（風間）